

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 18 年 51 週(12 月 3 週 12/18 ~ 12/24)

(作成) 愛知県感染症情報センター

連絡先: 052-910-5619 E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

今週の内容

- ・ 注意する感染症
- ・ 定点医療機関コメント
- ・ 全数把握感染症発生状況
- ・ トピックス
海外で注意すべき感染症について
- ・ 感染症だより (12 月前半)
- ・ WHO 疫学週報抄訳
2006 年 12 月 8 日 (81 巻 49・50 号)
ポリオ根絶に関する助言委員会勧告・第 2 部
WHO 国際検疫病情報
2006 年 12 月 15 日 (81 巻 51・52 号)
索引 (81 巻、27-52 号)
麻しん・風しん; 最近のウイルス分子疫学
WHO 国際検疫病情報
- ・ 五類定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

注意する感染症

RSウイルス感染症

愛知県は、RSウイルス感染症に関する注意情報を発表しました。詳しくは以下のページをご覧ください。

発表資料 (12 月 28 日); <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hodo061228>

51 週の定点あたり患者報告数は 1.12 人、前週比 1.4 倍 (144 人 203 人) と増加しています。尾張地区において患者報告数が多く、定点医療機関からのコメントも多くみられます。

参考ページ「RSウイルス感染症」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/rs.html>



感染性胃腸炎

51 週の定点あたり患者報告数は 11.4 人 (前週比 0.7 倍、3,010 人 2,087 人) と減少し、警報終息基準値 (12.0 人) 未満になりました。

参考ページ「胃腸カゼ、嘔吐症の集団発生 (ノロウイルス感染症)」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/nlv.html>



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

51 週の定点あたり患者報告数は 2.05 人、前週比 1.0 倍 (385 人 374 人) です。引き続き流行には注意してください。

参考ページ「溶血性レンサ球菌咽頭炎」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/yourenkin.html>

愛知県感染症情報センター <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

溶連菌感染症 5 名
高熱と咳のつづくかぜ多いです
A 型インフルエンザ 3 歳女
【一宮市 あさのこどもクリニック】
病原性大腸菌 O1 12 歳女
マイコプラズマ肺炎 8 名
【一宮市 城後小児科】
R S V 陽性の急性細気管支炎 3 例入院
【稲沢市 稲沢市民病院】
B 型インフルエンザ（5 歳女、1 歳男、6 歳男、6 歳男、4 歳男）このうち 3 名は同じ保育園です。今年の 4 月～5 月にはやっていた B 型に臨床症状が似ています。
【犬山市 武内医院】

R S ウイルス感染症が多発 46 例とやや峠の状態です。
アデノ感染症も散発しています。
伝染性紅斑も散発するも、インフルエンザはまだです。
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
R S ウイルス感染症によると思われる気管支喘息、喘息様気管支炎が増加しています。
感染性胃腸炎少なくなりました。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
4 歳女、77 歳男 マイコプラズマ感染症
胃腸かぜがいまだ続いて居る様です。
【春日町 丹羽医院】
17 歳女 B 型インフルエンザを検出しました。
【北名古屋市 田中クリニック】

尾張東部地区

感染性胃腸炎は少なくなりました。
水痘が目立ちます。
インフルエンザは B 型です。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
小学生、保育園児でインフルエンザ（B 型）流行がみられます。
感染性胃腸炎の流行は落ち着いてきました。
その他、目立った感染症はみられませんでした。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
70 歳男 O1 型 病原性大腸菌感染性腸炎
【豊明市 豊明団地診療所】
R S ウイルス感染症が増えています。
インフルエンザは B 型が出てきました。
【春日井市 春日井市民病院】
胃腸かぜ減少
水痘多数
アデノ感染症少々
【春日井市 朝宮こどもクリニック】

感染性胃腸炎の流行続く。
咽頭結膜熱、溶連菌感染症もみられる。
【小牧市 小牧市民病院】
R S 感染症、溶連菌感染症横ばい、感染性胃腸炎減少しています。
【小牧市 志水こどもクリニック】
感染性胃腸炎はまだ多いです。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
5 歳男 急性腎炎で入院
【半田市 医療法人林医院】
マイコプラズマ肺炎 2 名
感染性胃腸炎減少
水痘症散発
【南知多町 医療法人大岩医院】
13 歳男 インフル B（ワクチン済み）
【東海市 小児科ハヤカワ医院】
12/20 初めて A 型インフルエンザ 2 歳男 2 名
12/21 11 歳男 1 名
12/22 12 歳女 1 名
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

Strep A（+） 6 名
キャピリアアデノ（+） 6 名
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
マイコプラズマ肺炎 6 歳女
R S ウイルス 9 か月男
病原性大腸菌 O1（+） 2 歳女
マイコプラズマ肺炎 3 歳女
マイコプラズマ肺炎 6 歳女
マイコプラズマ肺炎が目立ちます。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
10 歳女 マイコプラズマ肺炎
11 歳女、33 歳女、10 歳女、36 歳女他 感染性胃腸炎
12 歳女他 溶連菌感染症
水痘症多いです。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
5 歳女 病原性大腸菌 O18（+）V T（-）
10 か月男 病原性大腸菌 O125（+）V T（-）
【岡崎市 にいのみ小児科】

7 歳女 マイコプラズマ肺炎
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
溶連菌感染症 手足口病 目立ちます。
【碧南市 永井小児科クリニック】
M y c o . 10 歳男、12 歳男、13 歳男
【刈谷市 田和小児科医院】
インフルエンザ A 型
【安城市 厚生連安城更生病院】
R S、2 歳 1 名
感染性胃腸炎、減少 8 名
【知立市 宮谷クリニック】
マイコプラズマ肺炎 3 歳男
感染性胃腸炎が流行中です。
【三好町 三好町民病院】
感染性胃腸炎はかなり減ってきました。
【西尾市 山岸クリニック】
溶連菌感染症がひきつづき多いようです。
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

インフルエンザはB型でした。
 【豊橋市 キンバラ小児科】
 ロタ陽性の下痢の乳児が散発しています。
 【豊橋市 あずまだこどもクリニック】
 1歳男 ヘルペス歯肉口内炎
 3歳男 4歳女 4歳女 2歳男 マイコ
 プラズマ肺炎4名
 【豊橋市 医療法人野村小児科】

70歳男性 A型 ワクチン接種済(6週間前)
 【豊橋市 医療法人杉浦内科】
 今季初めてのインフルエンザはB型でした。
 【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】
 16歳 B型インフルエンザ陽性
 【小坂井町 医療法人宝美会総合青山病院】
 インフルエンザA 1名(童浦地区)
 【田原市 かわせ小児科】

一～三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun060612.pdf>)

腸管出血性大腸菌感染症 (三類感染症)

| 番号 | 報告 保健所 | 年齢 | 性別 | 発病 月日 | 初診 月日 | 診定 月日 | 備 考 |
|----|-----------|----|----|----------|----------|----------|---|
| 1 | 春日井 | 18 | 女 | - / - | 12 / 19 | 12 / 19 | O157、VT1・VT2 (+) <無症状病原体保有者> |
| 2 | 豊田市 | 47 | 女 | - / - | 12 / 22 | 12 / 22 | O157、VT1・VT2 (+) <無症状病原体保有者> |
| 3 | 豊田市 | 19 | 女 | - / - | 12 / 26 | 12 / 26 | O157、VT1・VT2 (+) <無症状病原体保有者> 52週報告分 |

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun060612.pdf>)

レジオネラ症 1例
 アメーバ赤痢 1例
 推定感染地域；国内、推定感染経路；性的接触
 クロイツフェルト・ヤコブ病 1例(孤発性) <52週報告分>
 後天性免疫不全症候群 4例
 AIDS、推定感染地域；ネパール、感染経路不明 <50週報掲載分>
 AIDS、推定感染地域；国内、推定感染経路；性的接触
 無症候期、推定感染地域；ブラジル、推定感染経路；性的接触
 無症候期、感染地域不明、感染経路不明 <52週報告分>
 梅毒 2例 <50週報掲載分>
 早期顕症、推定感染地域；国内、推定感染経路；性的接触
 早期顕症、推定感染地域；国内、感染経路不明

トピックス

平成 18 年 12 月 28 日

海外で注意すべき感染症について

年末年始の期間中は、海外へ渡航される方も多いことから、厚生労働省から注意情報が出されています。鳥インフルエンザについては家きん等での発生が世界に拡大し、発生事例が増加しています。また、狂犬病は、本年海外で犬に咬まれ感染し、日本国内で発症する事例が2例続きました。他の感染症に関してもあらためて注意が必要です。海外へ渡航される方は以下のページをぜひご覧ください。

「海外で注意すべき感染症について」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/kaigai061228.pdf>

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

今日は御用納め。去年は暮れには何回か雪が積もっていましたが今年は暖冬のおかげで助かっていますが、スキー場などは大変のようです。駅でも昨今スキーヤーをあまり見かけません(学生に聞くと出掛けるとしても、バスが多いようですが)。いつも貴重な情報を有難うございます。12 月前半のまとめをお送りします。

1) 名古屋市内:名鉄病院福田先生からはウイルス性胃腸炎が多いけれども減少傾向でアデノウイルス感染症増加、典型的な咽頭結膜炎あり、マイコプラズマ感染症が相変わらず多くてウイルス性胃腸炎や咽頭結膜熱の重症例、マイコプラズマによる気管支炎・肺炎の入院が目立ち喘息性気管支炎の重症例の入院も多くなっている、城北病院渡辺先生からはインフルエンザ B (A はまだない) 数例、アデノウイルス陽性者少々、急性胃腸炎は減少傾向にあり伝染性紅斑数例、溶連菌感染症がやや多い、第二日赤岩佐先生からはウイルス性腸炎が多く入院も目立ち、RS ウイルス性細気管支炎の入院多数、アデノウイルス肺炎も散発、麻疹が 1 人入院、肺炎球菌性肺炎の入院も多い、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎(幼児～中学生)ときどき、ムンプス 4 歳男児 1 名あり、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎 10 例(病原性大腸菌、カンピロバクターなど)、その他便培養陰性、ロタ陰性で嘔吐下痢の患者が目立ち、A 群溶連菌咽頭炎 1 例、咽頭結膜熱 1 例(入院)、感染性胃腸炎の入院 5 例、マイコを含む急性気管支炎・肺炎の入院 5 例、中京病院柴田先生からは水痘、溶連菌感染症、感染性腸炎が目立ち、RS 陽性の細気管支炎の入院が増え始めた、大同病院水野先生からは 12 月第 2 週から RS ウイルス感染症増加、呼吸障害が強い例は入院(病棟の 10%以上が RS で入院、マイコプラズマ肺炎も多く一部入院、年長児で比較的重症者あり呼吸障害が強かったり発熱が遷延する例あり、とのお手紙でした。

2) 尾張地区:犬山市武内先生からは A 群溶連菌咽頭炎が散発、感染性胃腸炎が多発中でピークは 11 月末にすぎたようだが小学生を中心に再燃、マイコプラズマ肺炎散見、江南市昭和病院小児科からはアデノウイルス感染症が目立ち(入院多い)、感染性胃腸炎は減少、RS ウイルス感染症とマイコプラズマ肺炎の入院が目立つ、常滑市民病院高橋先生からは胃腸炎多く、溶連菌も目立ち、胃腸炎の入院が多く、生後 1 ヶ月児のロタウイルス陽性の入院例 1 名あり、とのお手紙でした。

3) 三河地区:トヨタ病院木戸先生からは咳と熱の患者が相変わらずで、嘔吐主体の胃腸炎の入院のピークは過ぎ、RS 感染症の入院が出てきた、加茂病院梶田先生からはノロと思われる急性胃腸炎がかなり多く(入院が目立つ)、インフルエンザ検出例はまだおらず、肺炎ではマイコプラズマによるものが多い、刈谷市田和先生からは感染性胃腸炎は最盛期に比べ半減、ロタ陽性例はなく、溶連菌感染症とマイコプラズマ感染症が少し目立つ(5～6 例/週)、碧南市永井先生からは感染性胃腸炎と溶連菌感染症が多く、伝染性紅斑と手足口病が時々、豊橋市からは感染性胃腸炎が目立つ、ウイルス性胃腸炎の流行が減少、水痘、ムンプス、溶連菌感染あり(市内長屋先生、宮澤先生)とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

2006 年 12 月 8 日(81 巻 49・50 号) <http://www.who.int/wer/2006/wer814950/en/index.html>

ポリオ。ポリオ根絶に関する助言委員会(Advisory Committee on Polio Eradication, ACPE) 勧告第 2 部。06 年 10 月 11 12 日、ジュネーブ。前号の続編。本報は野生株ポリオウイルス(WPV)の伝播が世界的に断絶されて従来のポリオ生ワク(OPV)の継続が不要となり中止される場合の作戦に関する勧告である。1) OPV 継続のリスク: ワクチン由来ウイルス流行(circulating Vaccine-derived polioviruses, cVDPV)、免疫不全者の OPV 接種後のワクチン由来ウイルス株(iVDPV)長期排泄。ACPE は過去 5 年 間、これらのリスクについて検討し、OPV が普及している地区でも WPV 根絶後 OPV 投与継続による cVDPV 発生が予測されること、iVDPV の伝播、などから経済効果上からも WPV 根絶後、定期 OPV 接種を中止するよう提言している。2) 勧告: 根絶後の選択肢について検討を継続すること。ACPE は iVDPV の広がりや重症度の解析により作成されたプロトコルの履行を特にサハラ以南アフリカ地域に勧告する。3) リスクの軽減と取扱: 06 年 9 月の ACPE 勧告は WPV の世界的根絶と封じ込め確認、サーベイランス精度高度化、単価 OPV 備蓄、世界行動計画第 3 版(Global Action Plan, GAP) に従い不活化ポリオワクチン(IPV)接種率 > 90% を維持、OPV 定期接種を世界的に中止、OPV 用ポリオウイルスセービン株の研究室内封じ込め。WHO は IPV の接種法、摂取量、回数、IPV による VDPV の予防の可能性、セービン株 IPV 開発などを検討、06 年の公式見解に追加、ACPE は米合衆国の国立の評議会による抗ポリオウイルス剤(少なくとも 2 種類、開発中)開発の報告を受取っている。4) 助言: ACPE は GAP の目標、作戦、実施予定段階を確認して 06 年末までに実施に同意、07 年初頭にコメントを配布する予定。以下、上記勧告と同じなので略。

国際検疫病 WHO 公示。12 月 17 日届出。コレラ:ギニア、ニジェール。

2006 年 12 月 15 日(81 巻 51・52 号) <http://www.who.int/wer/2006/wer815152/en/index.html>

索引:81 巻 27 52 号。項目別、国・地域別一覧。

麻疹と風疹。遺伝子型の世界的分布。最近の状況: WHO により世界的な麻疹風疹の検査室診断網が構築され、検査法の標準化と検査結果の報告網設定が推進、麻疹については現在 164 ヶ国の 674 検査室から IgM 抗体法による確認例数が報告されている。分離麻疹ウイルス株の遺伝子解析に関しては 05 年には 38 ヶ国で実施、06 年にさらに 27 ヶ国が追加、世界的な流行状況や伝播経路が解析され、対策立案が進められている。現在南北アメリカでは国内麻疹発生は根絶され、欧州地域と西太平洋地域では根絶目標が設定されている(注:05 年 9 月、WHO 西太平洋地域 37 ヶ国が宣言発表。12 年までの達成目標は 麻疹を含むワクチン接種率が最低限 95%、各国で 80%の地域から人口 10 万当り年間 1 例以上の麻疹疑いの報告例があること、麻疹疑

い例の 80% 以上から抗体測定材料が収集されること。本週報 81 号 341 頁参照)。根絶された南北アメリカを除く麻疹ウイルス遺伝子型の世界分布の地図あり。風疹ウイルスに関しても不明の国もあるが過去 10 年間で 40 ヶ国、最近 12 ヶ月にはさらに 6 ヶ国から流行株の遺伝子解析の結果が報告されている。WHO 南北アメリカ地域と欧州地域の風疹根絶目標は 2010 年であり、流行株遺伝子解析が進んでいる(世界地図あり)。以下、各地域の主流流行株のまとめである。1) アフリカ地域: (a) 麻疹ウイルス: 遺伝子型 B2、3、D2、4、8、10(国別の詳細な遺伝子型の記載あり、略)。(b) 風疹ウイルス: 遺伝子型 1D、1E、2B。2) 東地中海地域: (a) 麻疹ウイルス: 遺伝子型はエジプト、イラン、リビアなど 10 ヶ国から報告。遺伝子型 A、B3、C2、D4、7、8。(b) 風疹ウイルス: 1E。3) 欧州地域: (a) 麻疹ウイルス: 05 06 年流行頻発。殆どがウクライナの大流行(D6)とルーマニア(D4)由来。他にアジア、アフリカからの輸入株。ドイツ、デンマーク、英国、ポーランド、スイスなどで散発(遺伝子型略)、この 2 年間は消失国や多様性が目立つ。(b) 風疹ウイルス: 1g と 1E が各国で分離、英国へはフィリピン、フランス、ルーマニア、ロシアから輸入例あり。4) 南北アメリカ地域: (a) 麻疹ウイルス: この地域では流行は根絶されていて輸入例だけ。輸入例の遺伝子型、由来解析に重点がおかれている。05 06 年に発見された輸入例はケニア、ソマリア、スペイン、英国から B3、バングラデシュ、ドイツ、パキスタン、ルーマニアから D4、モルジブから D5、オーストラリアとインドから D8、インドネシアから D9、中国と香港から H1(注: 日本は以前は米合衆国における輸入例の最多輸出国として悪評高かったが最近はないようだ)。(b) 風疹ウイルス: 1B、C、E、g が各国で散発。5) 東南アジア地域: (a) 麻疹ウイルス: 最近進捗。インド(D4、7、8)、インドネシア(D9、G3)、タイ(D5)などで風疹についても検索中。6) 西太平洋地域: (a) 麻疹ウイルス: 06 年 11 月までに中国は全国で H1 流行持続、マレーシア(D9)、フィジー(H1)、韓国と香港(H1)、ベトナムでは H2 が土着、H1、D5 も検出、日本では千葉県で H1 と D5、オーストラリアは輸入例だけで B3、D4、5、8、06 年には D8 の輸入例を発端に(インドからの精神団体)84 例の発生あり。(b) 風疹ウイルス: 中国で 1E と 2B、日本では 1D が分離され、06 年の東京・国際検査網会議で新型が話題となった。

国際検疫病 WHO 公示。12 月 8 14 日届出。コレラ: アンゴラ、セネガル、ウガンダ、インド。

2006年第51週(平成18年12月18日～平成18年12月24日)

[illegible]

2006年第51週(平成18年12月18日～平成18年12月24日)

[illegible]